

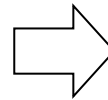
# 切り花バラの生産性向上

## 要約

- バラの生産性を高めるために、県農業研究開発センターが開発したCO<sub>2</sub>局所施用技術の導入を検討。
- 現地実証圃を設置し、効果の検証と問題点の抽出。
- 実証圃での結果をもとに、管内バラ生産者への導入を推進。

## 現状(背景)と課題

- バラ生産では、燃油高騰により生産コストが増加し、経営を圧迫。
- コストを抑えながら、生産性向上効果のある技術導入が必要。



## 目標

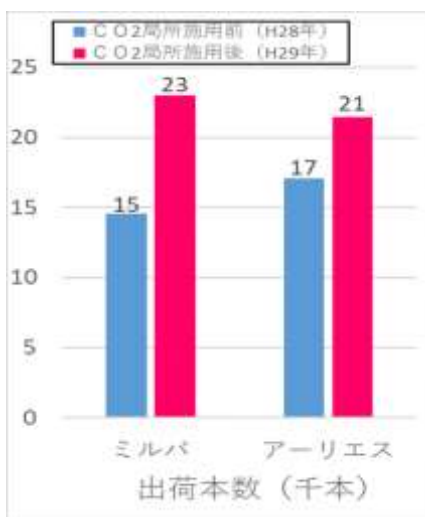
- CO<sub>2</sub>局所施用圃場面積 32a→40a

## 活動内容 (対象：管内バラ生産者)

- CO<sub>2</sub>局所施用技術実証圃設置、運営。
- CO<sub>2</sub>局所施用技術現地指導。
- 県外先進地視察による情報収集。
- 技術検討会の実施。

## 成果

- バラの出荷本数が前年の3割向上する効果を2品種（‘ミルバ’ ‘アーリエス’）で確認。
- 生産者のCO<sub>2</sub>局所施用技術導入への関心向上。



CO<sub>2</sub>局所施用実証圃



技術検討会の様子

北部農林振興事務所 農林普及課  
担当：農産物ブランド推進第一係 藤井祐子、松野壯太  
担い手・農地マネジメント係 辻本直樹  
産地ブランド発掘事業

## 普及活動のポイント

- 農業研究開発センターで開発された新技術の実証圃を産地の中で設置し、現場で普及するための課題抽出と生産者の新技術に対する意識を醸成。
- 関係機関と連携し、検討会開催や市場関係者への技術紹介を実施し、実需者に新技術をPR。
- 生産者とともに県外先進地視察を実施し、得られた情報をスムーズに技術改善に活用。

## 対象の変化

- CO<sub>2</sub>局所施用方式でも収量増加が期待できることが実証でき、次年度以降、温室全体へのCO<sub>2</sub>施用方式から、局所施用に徐々に切り替えていく意向。

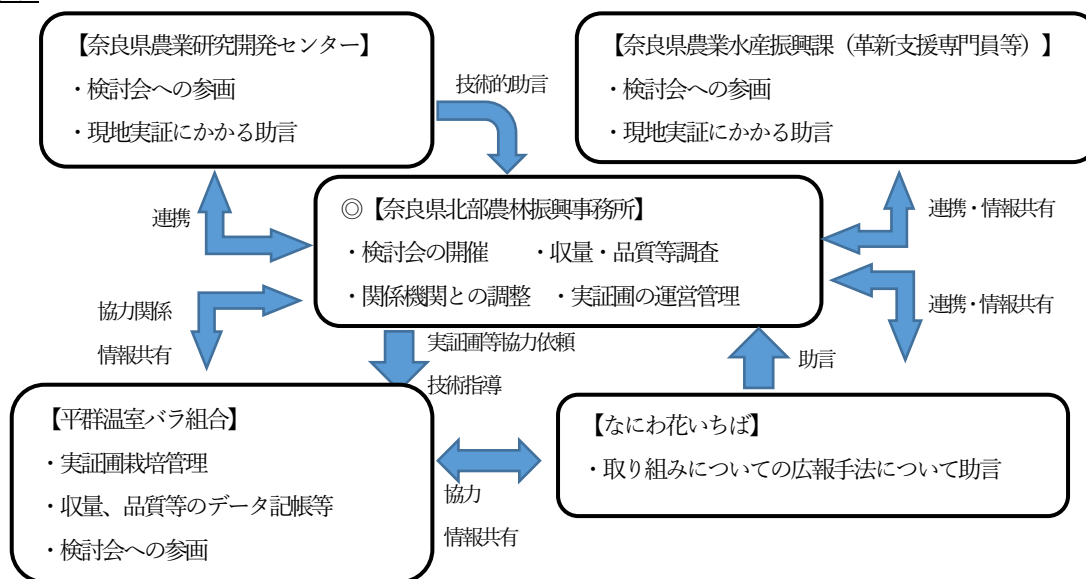
## 対象者からのコメント

- 実証圃での方法で、収量が約3割向上することを評価。しかし、コストをどう抑えるか、もっと使いやすい簡易なシステムがないのか、今後の検討課題と考える。

## これからの活動ビジョン

- より低コストで効果が期待できる局所施用法について継続して検討を行う。

## 活動体制



## 用語解説

### 【CO<sub>2</sub>局所施用技術】

バラの株元に設置した有孔チューブを通して、同化専用枝群落内にCO<sub>2</sub>を施用する。

従来の施設全体を密閉しCO<sub>2</sub>を施用する方法に比べ、光合成の活発な昼間の時間帯にも施用可能となり、施用したCO<sub>2</sub>の利用率を高めながら増収効果が期待できる。

